

## シラバス

|   |  |     |         |   |
|---|--|-----|---------|---|
| 学科名   | 文化芸術学科   | 科目名 | ビジネスマナー |   |
| 授業内容  | <p>《授業概要》</p> <p>社会が企業活動を監視する時代を迎え、企業のみならず社会人として個人にも倫理的行動が求められている。企業や組織の利益と順守すべきコンプライアンスという二律背反の課題に対して適切に倫理的に判断できる倫理観を身につけ判断能力を養う。授業は教員と学生の 2WAY 形式で、事例に対する各自の考えの発表を求めるので積極的に授業に参画し様々な事例に対しての対応方法を考える姿勢で臨むこと。ま</p> <p>《学習の到達目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ビジネス倫理の定義と正義とは何かを理解している。</li> <li>2) 規範倫理学の様々な思想の考え方について科学的に説明することができる。</li> <li>3) 企業・組織のリスクマネジメントについて、倫理的に考えることができる。</li> <li>4) マネジメントを関連づけて説明することができる。</li> <li>5) 企業・組織において日常的に生じる様々な二律背反的な問題の解決に役立てることができる。</li> </ol>   |     |         |   |
|   | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第1回：ガイダンス、ビジネス倫理の概要<br/>授業内容、成績評価、法律とビジネス倫理</p> <p>第2～3回：ビジネス倫理の定義<br/>正義という考え方、功利主義の考え方</p> <p>第4～5回：ビジネス倫理学の体系 帰結主義と非帰結主義、倫理的利己主義</p> <p>第6回 中間理解度テスト</p> <p>第7～8回：規範倫理学①功利主義の考え方<br/>最大多数の最大幸福、フォードピント事件</p> <p>第9～10回：規範倫理学②義務論の考え方<br/>普遍化法則の原則、人間性の原則</p> <p>第11～12回：規範倫理学③正義論の考え方<br/>自由・平等の原理、格差原理、公正機会均等の原理</p> <p>第13～14回：ケーススタディ 倫理観<br/>企業と消費者、企業と地域社会、企業と国際ビジネスの倫理</p> <p>第15回 前期単位試験</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第16～17回：コーポレートガバナンス①<br/>コーポレートガバナンス・コード5つの原則</p> <p>第18～19回：コーポレートガバナンス②<br/>プリンシパルとエージェンシー、モニタリングコストとボンディングコスト</p> <p>第20～21回：コーポレートガバナンス③<br/>リスクマネジメント、内部通報制度</p> <p>第22～23回：コーポレートガバナンス④<br/>ケーススタディ 消費者への責任</p> <p>第24回：中間理解度テスト<br/>内容の理解度チェックの実施とフィードバック</p> <p>第25～26回：企業におけるリスクマネジメント<br/>会社法で求められるリスクマネジメント</p> <p>第27～28回：問題が起きた時の対処法</p> <p>第29～30回：後期単位試験<br/>※実技の為、2回に分けて行います。</p> </td> </tr> </table> |     |         | <p>第1回：ガイダンス、ビジネス倫理の概要<br/>授業内容、成績評価、法律とビジネス倫理</p> <p>第2～3回：ビジネス倫理の定義<br/>正義という考え方、功利主義の考え方</p> <p>第4～5回：ビジネス倫理学の体系 帰結主義と非帰結主義、倫理的利己主義</p> <p>第6回 中間理解度テスト</p> <p>第7～8回：規範倫理学①功利主義の考え方<br/>最大多数の最大幸福、フォードピント事件</p> <p>第9～10回：規範倫理学②義務論の考え方<br/>普遍化法則の原則、人間性の原則</p> <p>第11～12回：規範倫理学③正義論の考え方<br/>自由・平等の原理、格差原理、公正機会均等の原理</p> <p>第13～14回：ケーススタディ 倫理観<br/>企業と消費者、企業と地域社会、企業と国際ビジネスの倫理</p> <p>第15回 前期単位試験</p> |
| <p>第1回：ガイダンス、ビジネス倫理の概要<br/>授業内容、成績評価、法律とビジネス倫理</p> <p>第2～3回：ビジネス倫理の定義<br/>正義という考え方、功利主義の考え方</p> <p>第4～5回：ビジネス倫理学の体系 帰結主義と非帰結主義、倫理的利己主義</p> <p>第6回 中間理解度テスト</p> <p>第7～8回：規範倫理学①功利主義の考え方<br/>最大多数の最大幸福、フォードピント事件</p> <p>第9～10回：規範倫理学②義務論の考え方<br/>普遍化法則の原則、人間性の原則</p> <p>第11～12回：規範倫理学③正義論の考え方<br/>自由・平等の原理、格差原理、公正機会均等の原理</p> <p>第13～14回：ケーススタディ 倫理観<br/>企業と消費者、企業と地域社会、企業と国際ビジネスの倫理</p> <p>第15回 前期単位試験</p> | <p>第16～17回：コーポレートガバナンス①<br/>コーポレートガバナンス・コード5つの原則</p> <p>第18～19回：コーポレートガバナンス②<br/>プリンシパルとエージェンシー、モニタリングコストとボンディングコスト</p> <p>第20～21回：コーポレートガバナンス③<br/>リスクマネジメント、内部通報制度</p> <p>第22～23回：コーポレートガバナンス④<br/>ケーススタディ 消費者への責任</p> <p>第24回：中間理解度テスト<br/>内容の理解度チェックの実施とフィードバック</p> <p>第25～26回：企業におけるリスクマネジメント<br/>会社法で求められるリスクマネジメント</p> <p>第27～28回：問題が起きた時の対処法</p> <p>第29～30回：後期単位試験<br/>※実技の為、2回に分けて行います。</p>   |     |         |   |
| 教科書   | コーポレートガバナンスの基本 手塚貞治 日本実業出版社 2,000 円  |     |         |   |
| 成績評価の基準と方向  | <p>期末テスト 50% 理解度テスト 40% 授業への参画度 10%</p> <p>※合計が 90 点以上は S 評価、80～90 点は A 評価、70～79 点は B 評価、60～69 点は C 評価、59 点以下は不合格評価とする。</p>  |     |         |   |
| 履修上の注意点   | <p>・新聞を読む(日経新聞を推奨)習慣をつけて下さい。</p>   |     |         |   |